

松浦 静山 せいざん

澤 正明

静山公は平戸松浦家第三十四代の当主で、諱は清、静山は隠居後の号です。

安永四年（一七七五）にわずか十六歳で平戸藩の藩主となり、以降三十一年間藩政を執り、外国の圧力や大飢饉と世情の定まらぬ中に、文武の奨励・藩政の振興につくした名君です。

また、静山公は『甲子夜話』の著者としても有名です。甲子夜話二七八巻



松浦静山公「三勇像」より（松浦史料博物館提供）

は当時の風俗・社会・自然現象など多岐にわたって記された随筆集で、近世の社会・文化を知る上で貴重な資料となっております。文政四年（二八二）十一月十七日、『甲子の日』に書き起こしたのに因んで書名としており、以降天保十二年（一八四一）八十二歳で死去するまで二十年にわたり書き続けられました。

松浦家の正史『家世伝』は、第三十代棟公の時期から資料の収集が行われておりますが、本格的な編纂事業は静山公の治世の時期に行われました。静山公自身が総裁となって編纂の事業が為されております。

記述のための基礎資料として藩内の調査を行っております。家々に伝わる系図や旧記の提出を求め、各地の実地調査をしており、その膨大な記録が松浦史料博物館に保存されております。

その一つに『田舎廻神社仏閣並古城址古墳等相糺帳』二十三冊があります。寛政七年の日付があり、神社・仏閣や古墓の調査、言い伝えの聞き取りなどの調査記録です。平戸藩の田舎（地方）の記録は殆ど見当たらない中で、これは貴重な存在です。

佐世保方面に関しても綿密な記録があります。寛政七年は今から約二百年前の時代ですが、その記録を頼りに現地を訪れてみると、記載の通りに仏像・神像・石造物などが発見されます。消えかかつてはつきりしない文字も判読が出来、歴史を証明する貴重な発見が相次ぎました。また、近年各地で発行された郷土史の貴重な資料にもなりました。

静山公は三十三人の子女に恵まれ、『子宝大名』といわれました。十一女愛子が大納言中山忠能に嫁し、その間にうまれた慶子姫は孝明天皇に嫁し、明治天皇の御生母となりました。

静山公は明治天皇の曾祖父にあたります。